

1. 感染症速報

第17週 4月21日		～ 4月27日		作成元:長崎県吉岐保健所 企画保健課					
	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り
インフルエンザ	😊	RSウイルス 感染症	😊	咽頭結膜熱	😊	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	😊	急性呼吸器感染症 (ARI)	😊
警報:開始30 終息10	0.33	警報:開始 - 終息 -	0.00	警報:開始3 終息1	0.00	警報:開始8 終息4	0.00	警報:開始 - 終息 -	44.00
感染性胃腸炎	😊	水痘	😊	手足口病	😊	伝染性紅斑	😊		
警報:開始20 終息12	2.00	警報:開始2 終息1	0.00	警報:開始5 終息2	0.00	警報:開始2 終息1	0.00		
突発性発しん	😊	ヘルパンギーナ	😊	流行性耳下腺炎	😊	新型コロナウイルス 感染症	😊	※定点数3:インフルエンザ 新型コロナウイルス感染症 急性呼吸器感染症(ARI)	
警報:開始 - 終息 -	0.00	警報:開始6 終息2	0.00	警報:開始6 終息2	0.00	警報:開始 - 終息 -	1.33	※定点数2:上記以外の疾患	
😊	発生報告なし	😊	少数の発生あり	😟	流行に注意 【注意報レベル】	😡	流行中 【警報レベル】		

※警報レベル基準値は表示のとおり(-は設定なし)。注意報レベル基準値は、インフルエンザ:10 水痘:1 その他は設定なし。

2. トピックス

★急性呼吸器感染症（ARI）が5類感染症に位置づけられました

急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection : ARI)とは、急性の上気道炎（鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎）又は下気道炎（気管支炎、細気管支炎、肺炎）を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の改正により、令和7年4月7日から急性呼吸器感染症が5類感染症に位置付けられました。ARIの流行の動向を把握すること、未知の呼吸器感染症の発生を探知することを目的に定点把握の対象となりました。県内では人口等を勘案して選定された51医療機関（ARI定点）から、1週間（月～日曜）にARIと診断された患者数が週に1回報告されます。

2025年第17週の定点当たりの県内の報告数は「69.24」で、吉岐地区は「44.00」でした。

ARIの予防には、換気や手洗い・手指消毒、マスクの着用を含めた咳エチケットなどの基本的な感染症対策となります。流行状況に応じて、感染予防に努めましょう。

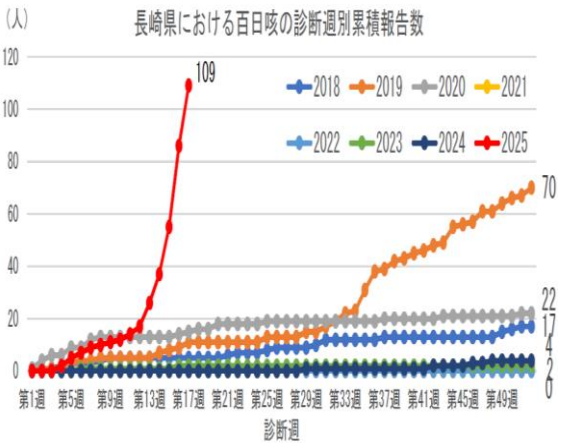
★百日咳の報告が多くなっています

第17週に吉岐管内で2件の発生が報告されました。

百日咳は、主に百日咳菌の感染によっておこるけいれん性の咳発作を特徴とする気道感染症です。潜伏期は通常5～10日で、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増え程度も激しくなります。夜間の咳発作が多いことも特徴で、回復までに2～3か月かかることもあります。また、乳児では、肺炎、脳症を合併し、重症化することもあります。

ワクチンの定期接種により発生数は激減していましたが、県内において2025年は第17週までに109件の報告があり、全数把握疾患となった2018年以降において、最多の報告数となっています。年代別では、10代（55%）、10歳未満（29%）が多くなっていますが、20代以上でも報告があっています。

感染経路は飛沫感染ですので、咳エチケット、手洗い、手指消毒で予防に努めましょう。

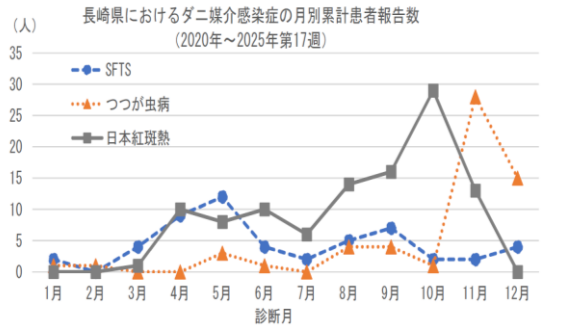


★マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。これらの感染症の報告数は、ダニの活動が活発になる4月頃から増加してきますので、野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。

また、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。（別添のチラシもご覧ください。）



森・草むら・公園などに
生息しています



※マダニ拡大イメージ

そのマダニ ウイルスをもっているかも？

病原体をもったマダニに咬まれることで、「重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)」や「日本紅斑熱」等に感染する恐れがあります。

SFTS とは

主にウイルスを保有しているマダニに咬まれて感染するダニ媒介感染症です。

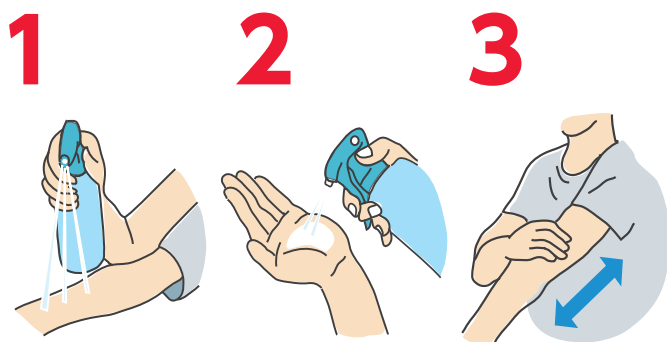
60歳以上の方、特に注意！

長崎県
全国ワースト
2位

※人口10万人対比・SFTS 報告数
(人口：総務省統計局 2023 年 10 月人口推計、
SFTS：2024 年第 25 週時点数値)

効果的な対策

虫よけ剤を正しく使う



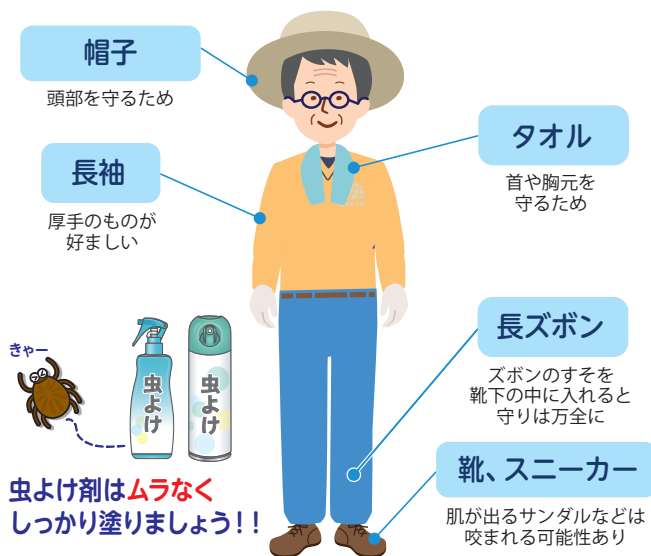
腕・足などお肌の露出部分には約15cmの距離からスプレーしてください。

顔・首筋には手のひらにスプレーしてお肌に塗ってください。

塗りムラのないように伸ばして塗り広げてください。

※汗をかくと虫よけ剤が流れてしまうので、その都度塗り直すことが大切です。

肌を露出しない服装



虫よけ剤はムラなく
しっかり塗りましょう!!

※室内外で飼育する愛玩動物による家屋内持ち込みにも注意が必要です

マダニに咬まれた! そんな時は・・・

- ▶無理に引き抜こうとせず、医療機関(皮膚科)で処置(マダニの除去、洗浄など)をしてもらってください。
- ▶マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診療を受けてください。



長崎県



アース製薬

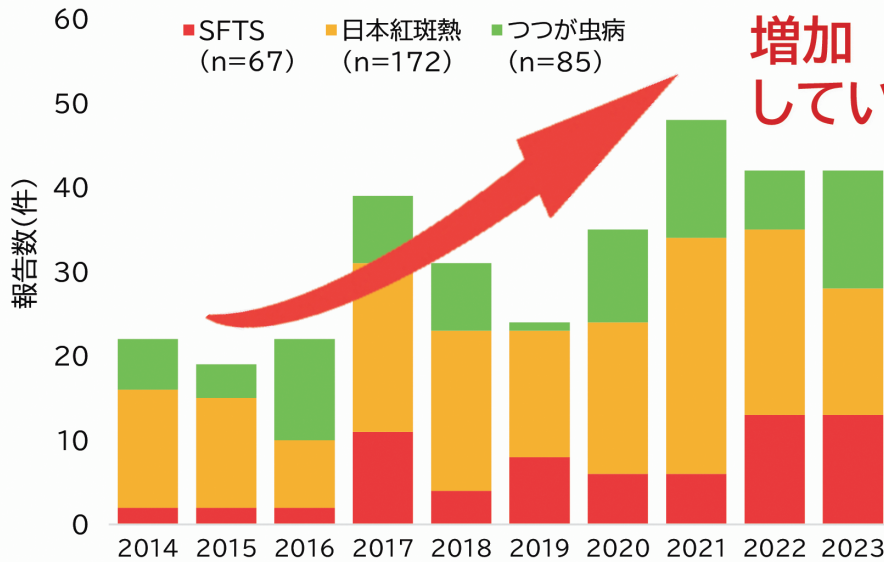
長崎県ダニ媒介感染症
情報はコチラ▶



長崎県とアース製薬は包括連携協定を締結し、安全安心で健康な暮らしに関する取り組みを進めています。

長崎県におけるダニ媒介感染症報告数 推移

2014～2023年



SFTSの届出地域

2023年 n=134



「ダニ媒介感染症」とは

- ダニ類に咬まれて感染する病気が増加しています。
- 長崎県では、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、日本紅斑熱、つつが虫病が報告されています。
- 特にSFTSは西日本を中心に報告があり、長崎県も報告が多い地域です。
- SFTSは、2013年に初めて確認された新しい感染症で、致死率10～30%*と高いため、『咬まれない対策』と『早期受診』が大切です。

* 厚生労働省ホームページ「重症熱性血小板減少症候群SFTSについて」より(2024/6/27時点)

『咬まれない対策』

- 除草・農作業、レジャー等屋外で活動する際は、草むらにいるマダニに注意が必要です。
- 肌の露出を少なくした服装で作業し、虫よけ剤を使用してください。
- 作業後は、服をよくはたいて、マダニを家に持ち込まないようにしましょう。
- 早めにお風呂に入り、肌にマダニが付いていないか確認しましょう。
- ネコやイヌ等がマダニを付けて家に持ち込まないように、マダニが付着していないか確認し、こまめにブラッシングをしましょう。
- ネコやイヌが病気にかかっていることがあります。体調不良の動物や死骸は素手で触らないでください。

『早期受診』

- 受診のタイミングは2回あります。1回目は皮ふを咬んでいるマダニを見つけた時、2回目は発熱などの症状が出た時です。どちらの場合も、早めに受診をしてください。
- SFTSは、発熱、倦怠感、食欲不振、下痢や嘔吐などの消化器症状が多くみられます。
- 日本紅斑熱とつつが虫病では、発熱、発疹、刺し口が主な症状です。

問合せ先

西彼保健所	095-856-5059	県央保健所	0957-26-3306
県南保健所	0957-62-3289	県北保健所	0950-57-3933
五島保健所	0959-72-3125	上五島保健所	0959-42-1121
壱岐保健所	0920-47-0260	対馬保健所	0920-52-0166
長崎市保健所	095-829-1172	佐世保市保健所	0956-24-1111